

2022 環境報告書



東芝自動機器システムサービス株式会社
秋田事業所

目 次

	ページ
事業所紹介	
秋田事業所長あいさつ	2
環境保全基本方針	
秋田事業所概要	
環境保全活動(EMS)	5
環境保全活動の取り組み(環境マネジメントシステム)	
環境保全目標	
環境保全体制	
環境負荷	
秋田事業所の環境負荷	9
環境関連施設 サイト管理マップ(環境リスクマップ)	10
環境会計	11
設備投資	12
著しい環境側面	
有意な環境影響要素	13～16
事業活動における環境配慮	
廃棄物の削減(ゼロエミッション)活動	17
廃棄物処分量の推移	
廃棄物最終処分率とリサイクル率の推移	
省エネルギー活動	18
電力使用量の推移	
省資源活動	19
上水使用量の推移	
施設管理(水質、大気、有意な施設)	
全員活動、コミュニケーション、地域との共生	22～25
環境月間の取り組み	
環境にかかわる改善提案の推進	
工場見学	
七曲臨空港工業団地とその周辺の緑化事業	
環境教育・見学会への参加	
廃棄物処理場の現地確認	
生物多様性活動(ビオトープ)	



東芝自動機器システムサービス株式会社

秋田事業所 事業所長

高橋 晃樹

当事業所は、自動化省力機器の製造拠点として、1991年10月に設立、1993年4月より操業を開始し、2004年には、環境システム(ISO14001)の認証を取得しております。

秋田市河辺戸島の地において、かけがえのない自然環境を守り、製造拠点としての生産活動を進めていく事が最大の課題であり、日常点検の重要性や継続的改善の必要性を重視しております。

環境改善は一人ひとりが身近なところからすすめる事であると考え、廃棄物の分別や節電に加え、本来業務である製品製造の効率化を推進する事で事業所の使用エネルギーを抑える等の活動を推進しています。また、生物多様性を含む環境評価および、2009年から実施の七曲臨空港工業団地とその周辺の緑化事業の継続実施を近隣町内会や連絡協議会の一員として展開しております。

本年も当事業所の環境保全活動の取組みとして、以下の目標を掲げております。

- ① 廃棄物の削減(ゼロエミッション活動)
- ② 省エネルギー推進
- ③ 省資源化
- ④ 施設管理

事業活動を通じて、地球環境への負荷低減、顧客満足向上が当事業所の果たすべき重要課題であると認識し、社会や地域に貢献活動を行いながら、SDGs(持続可能な開発目標)の実現に向け、これからもさまざまな社会的責任を果たしていきます。

■環境保全基本方針■

東芝自動機器システムサービス(株)秋田事業所は、「人に寄り添い、社会を支える。」をモットーに、地域全体の社会インフラの構築に不可欠な、セキュリティ・自動化システムに関わる機器やシステム、サービスを提供する生産拠点として、気候変動をはじめとするグローバル共通の課題を解決する製品・サービスを提供し、人々の安全・安心と豊かな社会を支えていきます。

そして、東芝グループ理念体系における「人と、地球の、明日のために。」の信念のもと、環境への取り組みを経営の最重要課題の一つとして位置付け、豊かな価値の創造と地球との共生を図り、事業そのものが環境活動であると考え、持続可能な開発目標である SDGs の達成に貢献します。

事業と調和させた環境経営を当社グループ一体となって推進します。

- (1) 環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- (2) 組織の環境側面について環境への影響をライフサイクルの視点で評価し、環境目標を設定します。
- (3) 環境側面に関する法令、当社が同意したその他の要求事項及び自主基準を遵守します。
- (4) 環境負荷の少ない物品や材料を購入するグリーン調達を推進します。
- (5) 環境教育・啓発活動の継続的な実施により、環境意識の向上に努めます。

持続可能な社会の実現に向けて、環境負荷低減に取り組みます。

(気候変動への対応)

- (1) エネルギーの効率的な利用により、温室効果ガスを削減します。
- (2) 社会の温室効果ガス排出抑制に貢献する製品・システムおよびソリューションを提供します。

(循環経済への対応)

- (1) 資源の有限性を認識し、資源の有効活用と廃棄物の発生を抑制します。
- (2) 包装材を含む製品の資源効率性の向上に努めます。

(生態系への配慮)

- (1) 事業活動による生態系への影響を認識し、自然環境や生物多様性の保全に努めます。
- (2) 水資源の有効利用と汚染の予防により、地域環境の保全に努めます。
- (3) 化学物質による汚染の予防、環境リスクの低減に取り組みます。

“美の国秋田”、“自然豊かな河辺戸島”の一員として、地域・社会と協調・連携した環境活動により社会に貢献します。

- (1) 地域・社会との相互理解促進のため、環境情報の積極的な社内外への開示及び環境コミュニケーションの充実を行います。
- (2) 地域・社会の環境活動への積極的な参画・協力を行います。

SDGsとは、2015年に国連が定めた2030年に向けて取り組む世界の社会課題解決に向けた17の目標と169のターゲットです。

当事業所の環境保全目標ごとに、関連する上記のアイコンで類別しています。



Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)

適用範囲

東芝自動機器システムサービス株式会社 秋田事業所の従業員、及び外部応援者、工場、敷地、建屋、設備、常駐業者及び事業活動に関する環境保全活動に適用する。

(該当地域) 秋田県秋田市河辺戸島字七曲台120番25、及び影響を及ぼす範囲

秋田事業所概要



敷地面積	38,000m ²
建屋面積	7,100m ²
在籍人員	66名(2022年4月現在)

経 緯

1993年 4月	東芝秋田ソシオプロダクツ株式会社として操業
2002年10月	東芝ソシオシステムズ株式会社秋田事業所となる
2004年 9月	ISO14001認証取得
2005年 9月	ISO14001:2004版への移行完了
2007年 8月	ISO14001認証1回目更新審査合格
2010年 9月	(TISS)グループ傘下としてISO14001認証
2019年 1月	更新審査合格
2022年 4月	東芝自動機器システムサービス株式会社秋田事業所となる

主要生産品目

自動省力機器(LP)

- ・海外向け紙幣処理機
- ・郵便区分機(国内外)
- ・特殊機器製品

料金收受システム(FC)

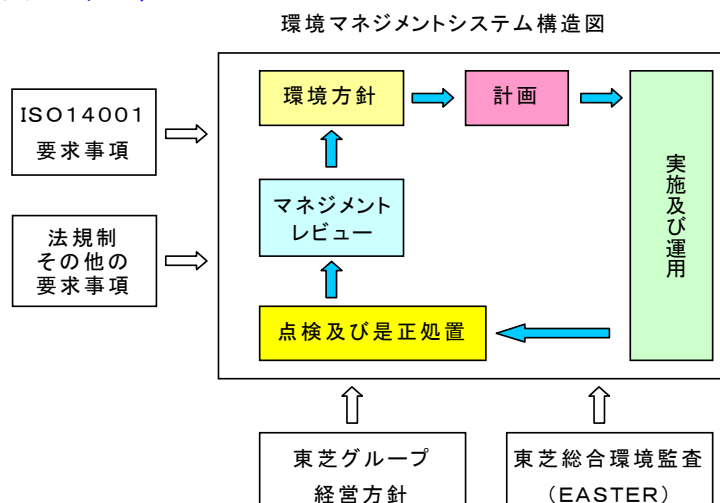
- ・自動改札装置
- ・定期券発行機
- ・新幹線自動改札装置

秋田事業所環境保全目標

1	資源の有効活用 ・廃棄物の削減（分別・再利用） ・ゼロエミッション推進	15 陸の豊かさも 守ろう 
2	CO2排出量削減の推進 ・電力使用量の削減	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 
3	上水の適正使用	13 気候変動に 具体的な対策を 
4	化学物質管理 副資材の使用・排出の適正管理	11 住み続けられる まちづくりを 
5	生物多様性の推進	8 働きがいも 経済成長も 
6	環境イベントの実施	13 気候変動に 具体的な対策を 

環境保全活動（EMS）

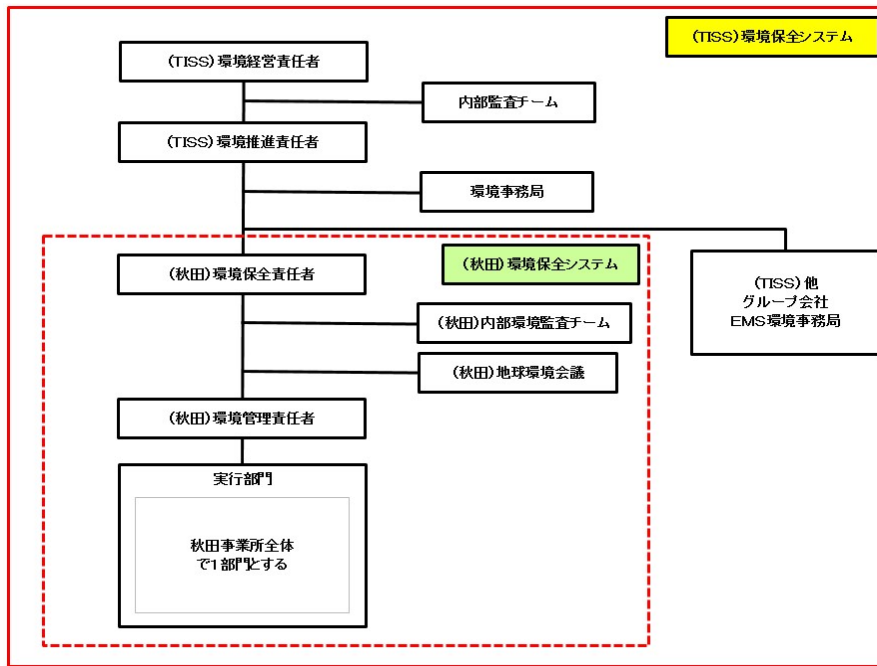
環境保全活動の取組み（環境マネジメントシステム）



秋田事業所は、2004年9月に ISO14001 認証取得し、更新審査を経て、環境保全マニュアルを軸とした環境マネジメントサイクル（Plan－Do－Check－Action）により、継続的改善を図るべく全従業員一丸で取り組んできました。その後、2010年に（TISS）の一員となり、（TISS）の EMS の元、秋田事業所としての環境マネジメントサイクルを生かしながら、さらなる環境保全に取り組んでおります。

環境保全体制

秋田事業所は、環境保全責任者（経営層）及び環境管理責任者（業務担当・環境責任者）のもと事業所組織に沿った環境保全体制で運用しています。また、秋田事業所地球環境会議を審議・諮問機関としております。



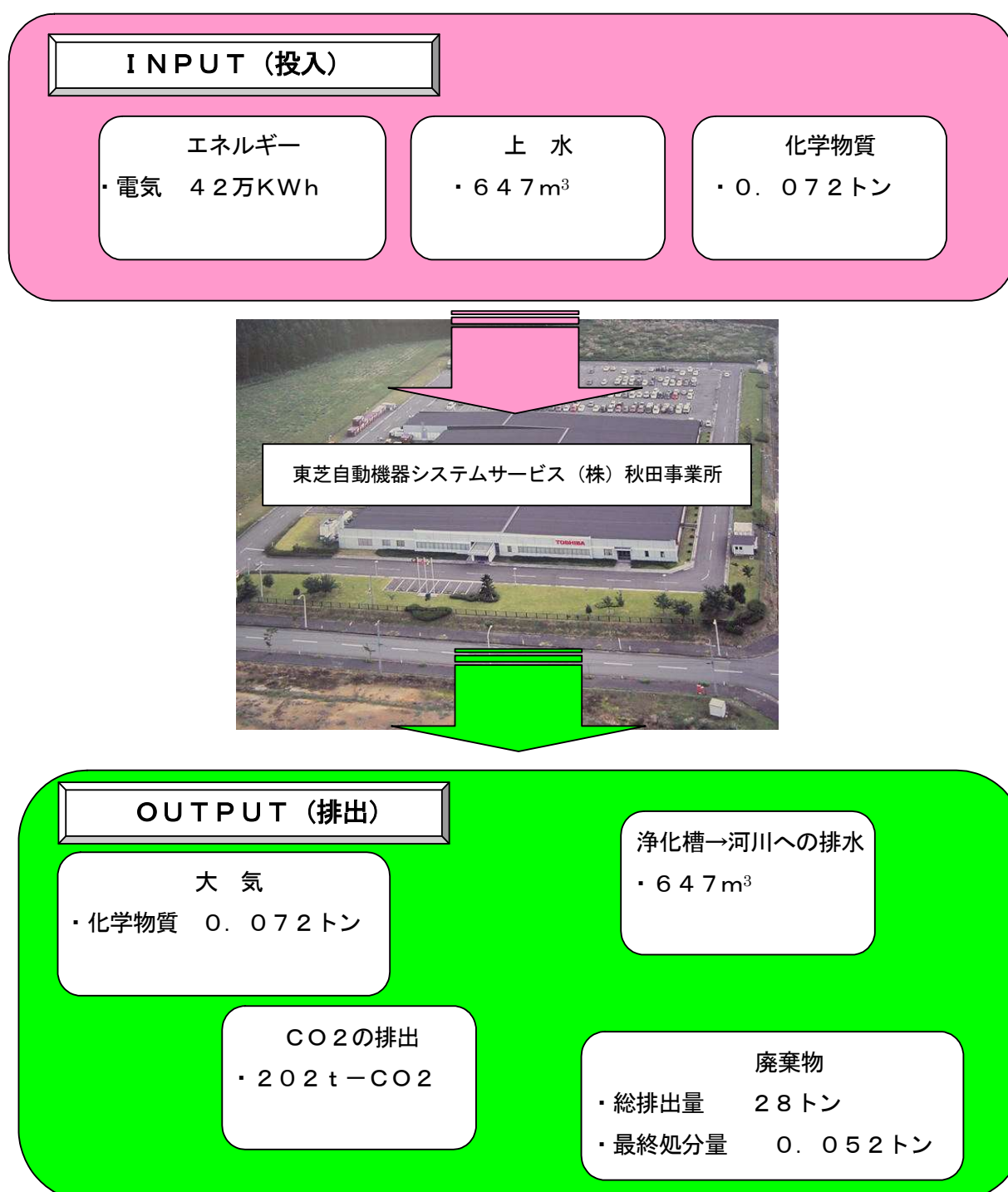
環境負荷

秋田事業所の環境負荷

秋田事業所の環境負荷の主なものは、電力等のエネルギーの使用、廃棄物の排出、公共用水域への排水、化学物質の使用等があります。これらは継続的な監視・測定によるデータの収集を行っています。

水質・騒音・振動は定期的に測定し法規制値、自主基準値と比較し問題ないことを確認しています。

環境負荷概要



実績数値は2021年度のものであります。

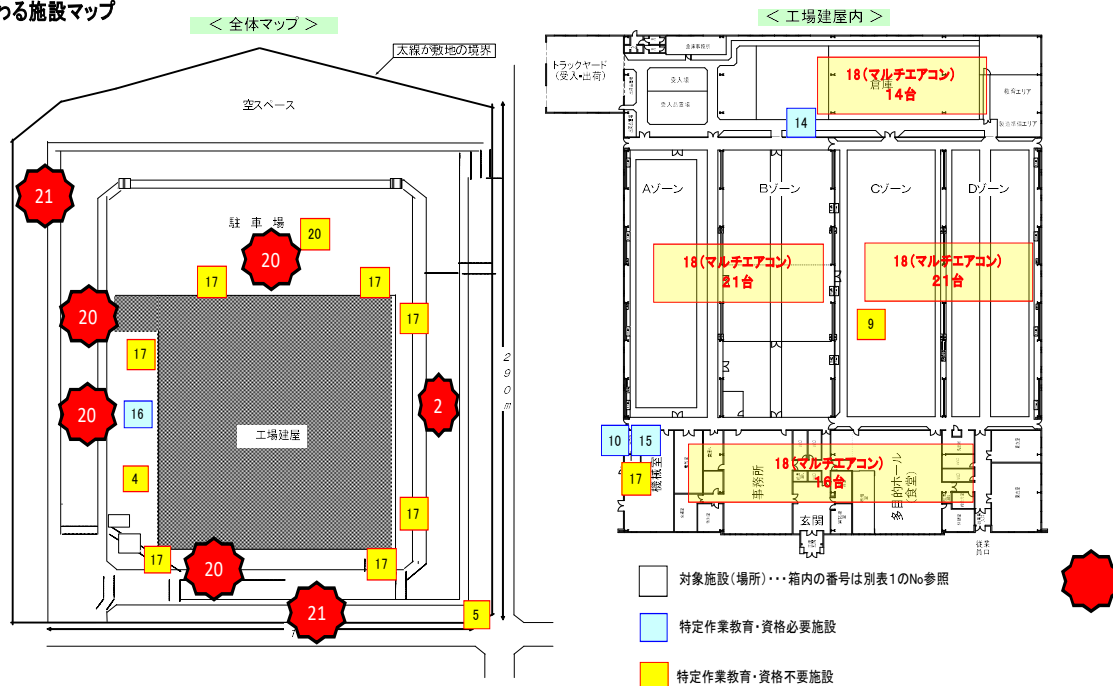
環境負荷

環境関連施設 サイト管理マップ(環境リスクマップ)

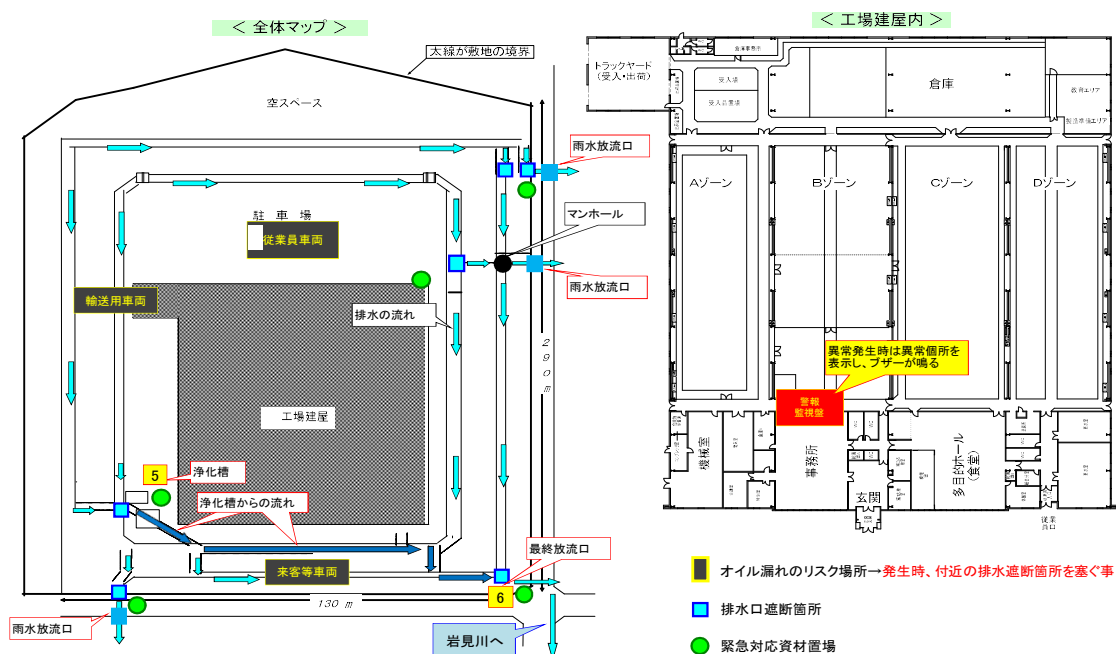
秋田事業所では、環境関連施設の管理のためにサイト管理マップ(環境リスクマップ)を作成しております。環境関連施設の点検やリスク対応に役立っています。全体マップと系統ごとのマップを作成して、それぞれのリスク、及び教育の必要性などを明確にしております。

《全体マップ》

環境に関わる施設マップ



《配水系のマップ》



環境負荷

環境会計

秋田事業所では、東芝グループの一員として、年度ごとに、環境に要した費用をすべて分類算出し、公表しております。年度ごとの推移の比較や次年度以降の予算検討に役立てております。

・環境保全コスト

(2021年度環境会計集計結果:対象期間2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位:千円)

コスト分類		コスト内容	コスト計		合計
			設備投資額	維持管理費用	
事業エリア内コスト	①公害防止	大気、水質等の汚染防止など	0	571	571
	②地球環境保全コスト	温暖化防止、省エネなど	0	3,240	3,240
	③資源循環コスト	廃棄物処理、リサイクルなど	0	857	857
計(①+②+③)			0	4,668	4,668
上・下流コスト		グリーン調達、低環境負荷化など	0	0	0
管理活動コスト		EMS 整備・運用、情報開示、環境負荷監視、環境教育、担当者人件費、緑化環境維持など	0	3,557	3,557
研究開発コスト		環境調和型製品の開発など	0	0	0
社会活動コスト		緑化、環境活動支援、情報開示	0	0	0
環境損傷対応コスト		環境保全に関わる補償金など	0	0	0
コスト合計			0	8,225	8,225

・効 果(年度目標に対する削減量)

効果分類	効果内容	効果額 (千円)	内訳	
			環境負荷	負荷低減量
直接効果	エネルギー削減(電力)	-	電力	-
	廃棄物削減	-	廃棄物	-
	上水使用量削減	-	上水	-

環境負荷

・設備投資

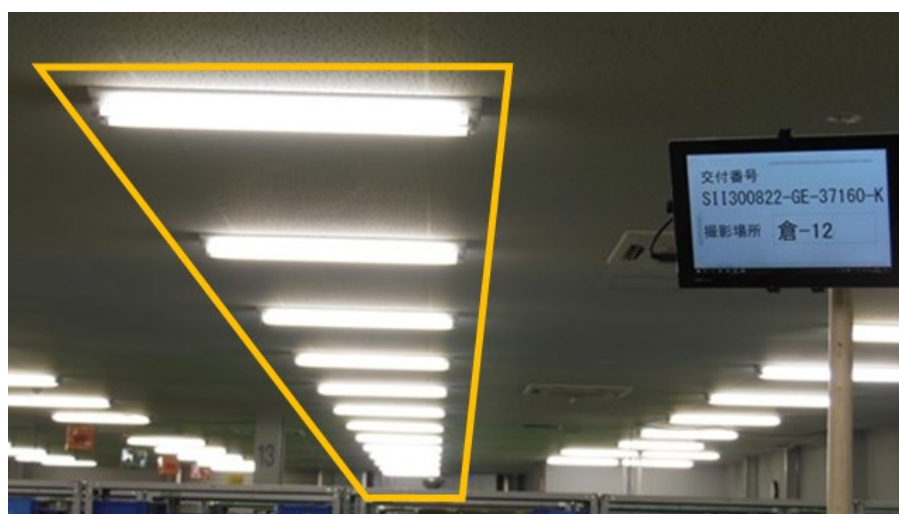
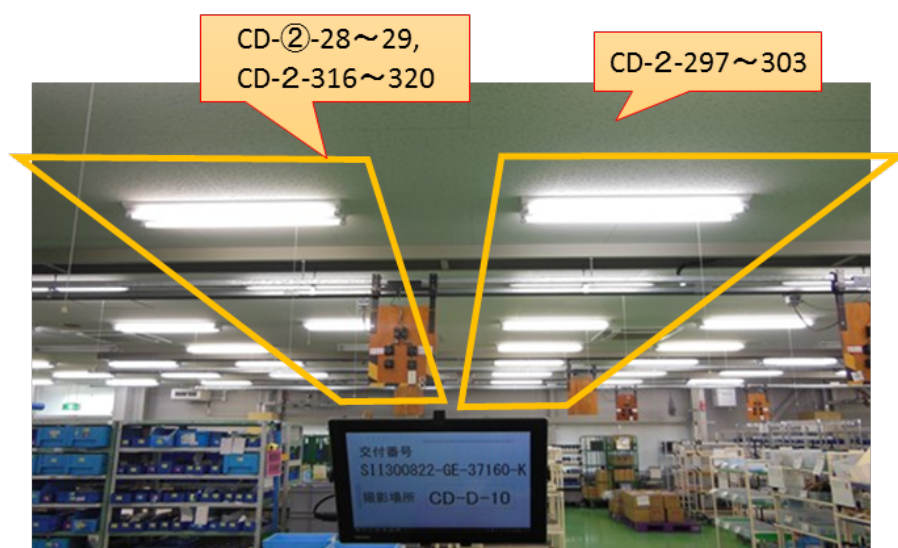
2017年度から屋内照明の LED 化の取組を開始しました。国の省エネ施策の一環である補助金を活用し、事業所内の照明全てを LED に更新するもので、補助金の申請に必要な資料等々を準備し、2018年8月にようやく申請が承認されました。

工事は、2018年9月に着工し、同年12月に完了しました。

これにより、照明の使用電力は約60%削減され、事業所全体でも約25%の省エネ効果が実証されております。

※事業所内には、1326機の照明があり、事業所全体電力に占める割合も高い。

（写真は、新旧設備比較のために、全箇所を撮影したものの一部）



著しい環境側面

有意な環境影響要素

秋田事業所では、環境影響側面・環境影響の評価の見直しを年1回行っています。

その評価で有意になれば「有意な環境影響要素登録表」に登録します。それぞれの状態を、定常、非定常、事故、緊急、間接の5つに分けて管理しています。有意な環境影響要素となった環境側面は、年度の環境目標・推進計画にも推進項目として、重点的に管理しています。

有意な環境影響要素登録表

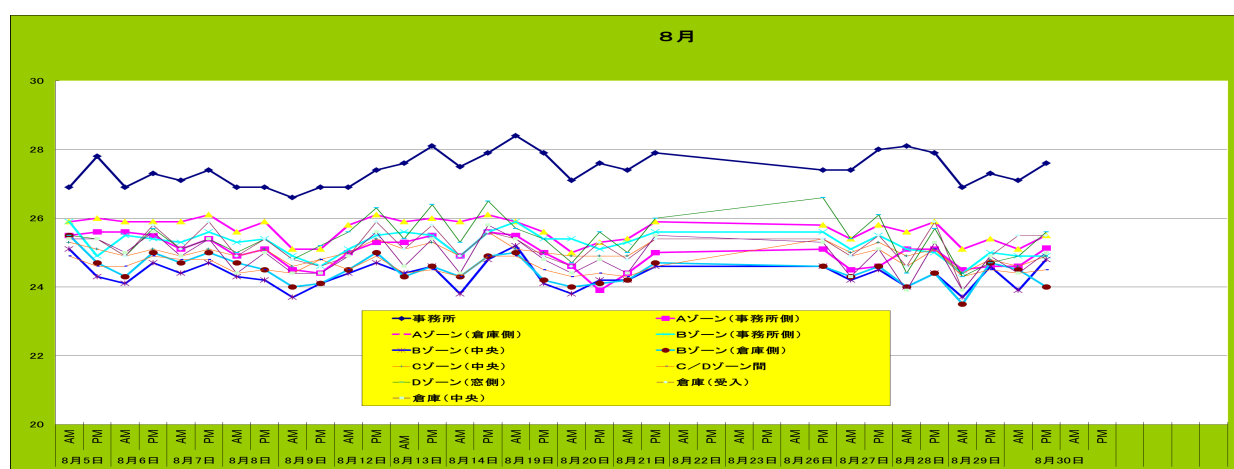
見直し: 2022年4月1日

部門: 秋田事業所

状態: 定常

環境側面	備考
廃棄物排出量	総排出量、最終処分率とも目標クリアー
電力使用量	低減活動を行ったものの、テント倉庫に設置した空調分、目標値をオーバーしてしまった。

《エリアごとの温度定点観測》



※**エリアごとの温度管理厳正化**を行って、冷しすぎ、暖めすぎを防止し、節電を徹底しています。

状態: 非定常

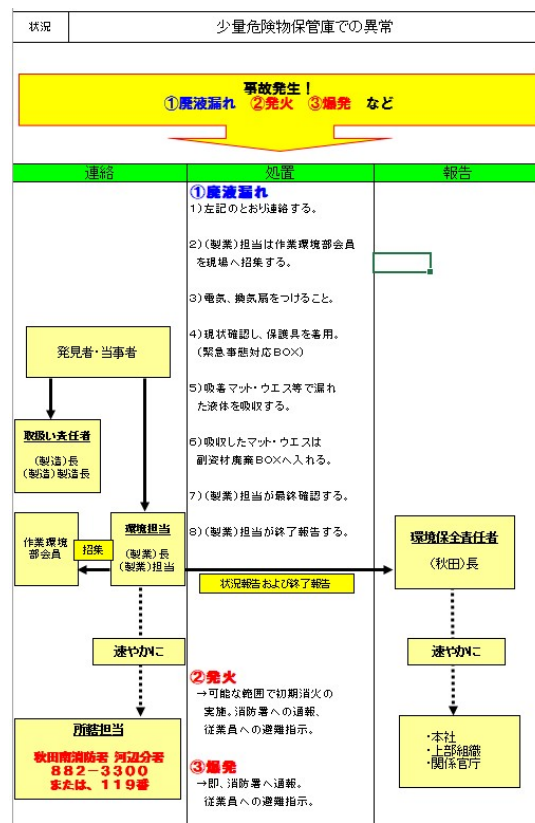
該当なし

著しい環境側面

有意な環境影響要素

状態: 事故

環境側面	備考
危険物保管庫の廃液漏れ [少量危険物保管庫]	特定作業員による取り扱い、安全徹底、対応資材、訓練
エタノール小口保管庫での エタノール漏れ [エタノール小口保管庫]	日常点検の実施、異常時対応資材の設置



重要行動

《火災時》

◆通報する 119

◆水で消火するな!

◆ABC粉末消火器を使用する



《廃液漏れ時》

◆換気している事を確認

◆保護具着用
・メガネ
・ゴム手袋
・マスク

◆吸着マットやウエスで吸収し、産廃として廃棄する。



※事故発生時の手順書を整備しています。

著しい環境側面

有意な環境影響要素

状態:緊急

環境側面	備 考
車両からのオイル流出	対応資材準備、及び緊急事態対応訓練実施
草刈り機からオイル流出	対応資材準備、及び緊急事態対応訓練実施



※緊急事態発生時の対応訓練を実施しています。

著しい環境側面

有意な環境影響要素

状態:間接

環境側面	備 考
通勤車(約60台)	従業員通勤車のガソリン使用、排気ガス

※通勤車は、**エコカーの推奨、アイドリングストップ**などを推進しています。

事業活動における環境配慮

廃棄物の削減(ゼロエミッション活動)

秋田事業所では、廃棄物の削減のために以下の活動に取り組んでいます。また、2008年度からは、"ゴミ箱"という呼称を撤廃し、"資源回収BOX"と改め、分別の徹底を強化しました。

1. 再資源化の推進

部品の梱包材として大量に排出されるダンボール、発泡スチロールや廃部品のケーブル類、金属類(鉄、アルミ等の材質で細分別)の分別リサイクルを推進しています。

2. 紙の使用量・排出量の削減と再資源化

シュレッター屑が再生可能なシュレッター機や機密書類委託シュレッターシステム等の利用により、紙のリサイクル化を推進しています。また、部品梱包に使われている新聞紙や包装紙も古紙として再生化するよう改善しました。

3. 廃プラスチック類の再生・再資源化

2008年1月からは、プラスチック類を完全マテリアルリサイクル処理へと改善され残渣率0%となり、秋田事業所全体の最終処分率は低い状態で維持されております。

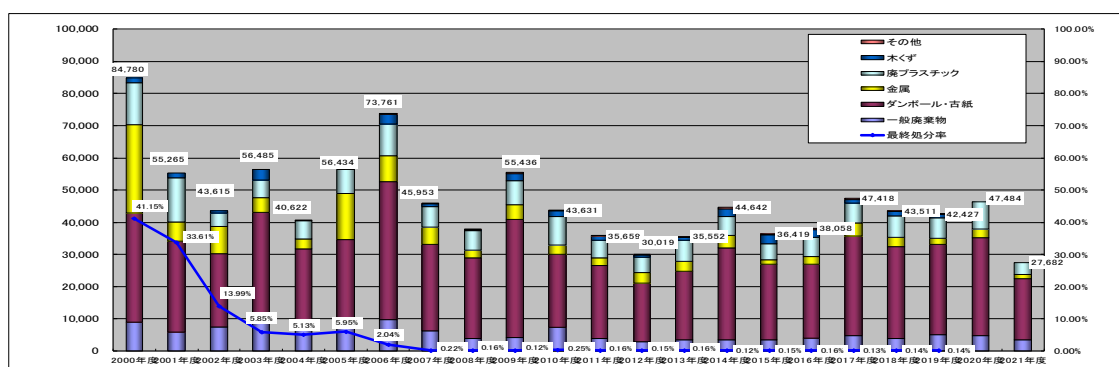
2011年からは廃プラ処理業者が開発した廃棄物用袋を購入するようになり、秋田事業所から排出された廃プラが袋に姿を変えて戻り、それに廃プラを入れて排出するという循環が確立されました。今後も引き続きゼロエミッションをさらに推進してまいります。

4. 産業廃棄物の有価物化推進

従来から金属は有価物として排出していましたが、2015年度からは、ダンボールも有価物としての扱いに変更し、廃棄物発生量を抑制しています。

※ 廃棄物発生量＝総排出量－有価量

《年度別 排出量と最終処分率の推移》



※基本的に一般廃棄物以外は、全てリサイクルされ、最終処分率は**ゼロエミッション**を継続しています。

注) 排出量(棒グラフ)の増加は、生産高の増加に伴うもの。

事業活動における環境配慮

省エネルギー活動

秋田事業所は、省エネルギー活動として電力使用量の削減を推進しています。

1. 照明の省エネ対策

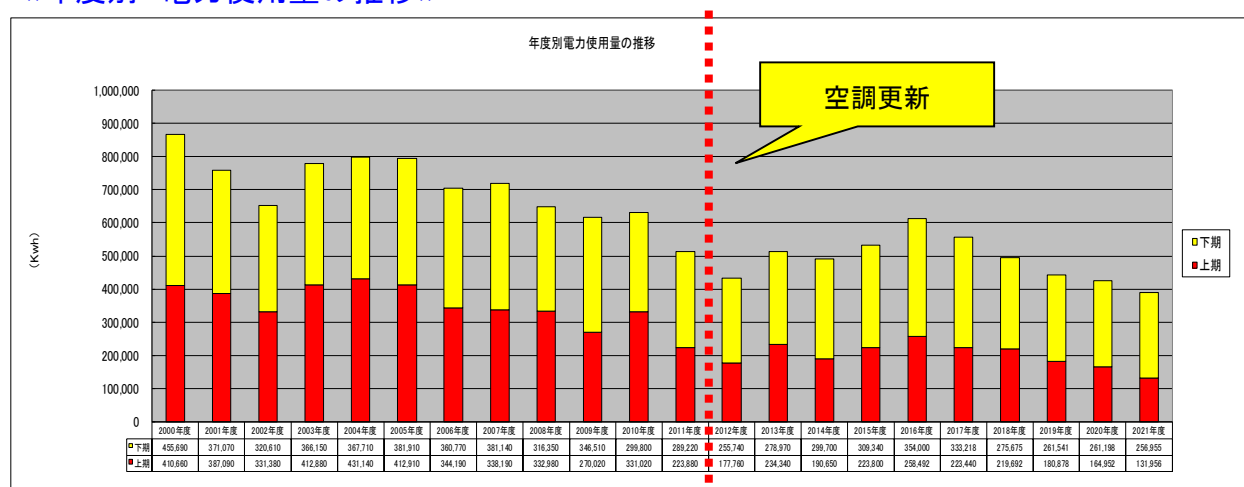
昼休みの消灯、未使用エリアの消灯の徹底及び通路の間引き等を進めています。

2. 冷暖房温度の省エネ対策

エアコン設定温度の管理と各所に設置した温度計で温度管理し、こまめに運転停止を進めています。

3. デマンド監視装置により、目標電力をオーバーすると警告ブザーが鳴るようにしており、使いすぎに気づける状態にしています。

《年度別 電力使用量の推移》

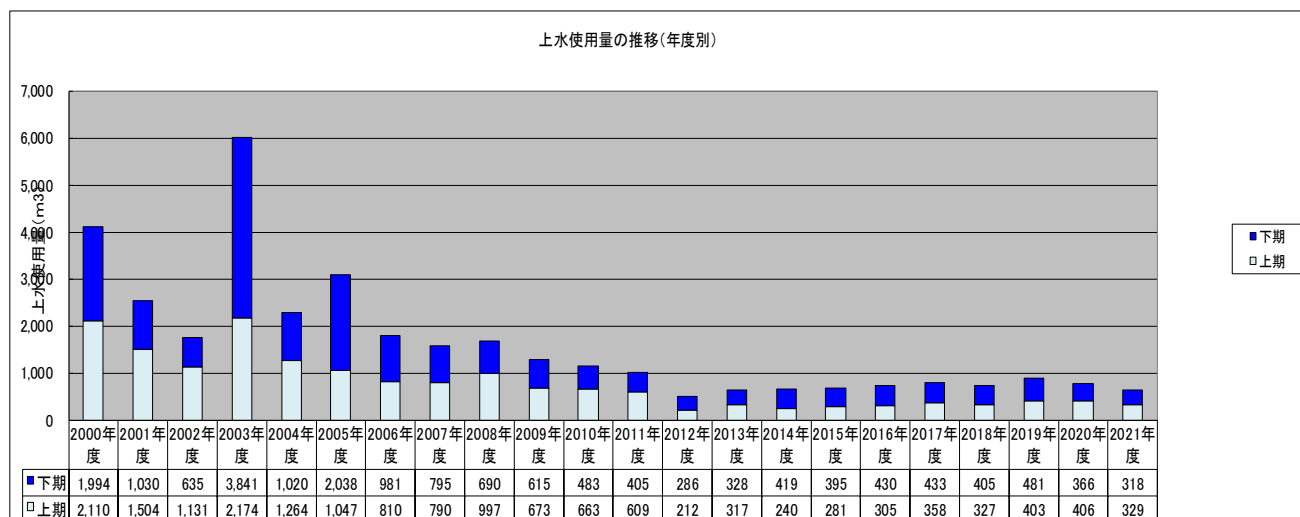


事業活動における環境配慮

省資源活動

秋田事業所では、省資源活動として、上水使用量の節減に努めています。生産活動に工業用水を使用していないため生活用水に限られますが、無駄のないよう節水に配慮しています。

《年度別 上水使用量の推移》



(注)2003年度は、地中水道管の亀裂が発生し上水使用量が急増しました。

2005年度は、一時、融雪に上水を使用したため使用量が増加しました。

施設管理(水質、有意な施設)

秋田事業所は、法令に基づいて排水、浄化槽の水質を測定・管理しています。



《浄化槽の専門業者の委託保守点検》(月2回) → (立会い実施)

また、浄化槽および最終放流口のBODなどの自主水質検査を年4回実施しています。

最終放流口は、週1回のpH測定を実施して、法規制値より厳しい自主管理値での管理をしております。

上記のほか、浄化槽は年1回の法定水質検査、及び清掃を実施しています。

リスク対応

異常想定訓練

秋田事業所では、環境リスクのある施設において想定される事故が万一発生した場合でも、適切に対応できるように異常想定訓練を年1回以上計画的に実施しています。

今年度は、「リサイクルセンター付近でのオイル漏れ」を想定した実地訓練を実施しました。環境問題は、会社の信用まで失いかねないとの認識で、訓練を実施しております。

環境関連施設のリスク改善

環境関連施設の修理・清掃を定期的に行っています。常に綺麗にすることで、異常に気づきやすい状態にするようにしています。その他、環境関連施設の日常点検を実施し、不具合が発見された場合、計画的に改善しております。

下写真は、浄化槽を修繕した時のものです。

《浄化槽の修繕》



全員活動、コミュニケーション、地域との共生

環境月間の取り組み

秋田事業所では6月の「環境月間」の企画・取り組みのひとつとして、毎年恒例の『エコロト』を実施しました。これは、当事業所の電力使用量を予想するもので、前年同月、先月、当月（期間中更新）の電力使用量データを元に予想することにより「当事業所の電力使用量を認識して省エネにつなげること」を目的としました。内容は、3週間にわたり各週1日の1時間の電力量を3つの時間帯で予想し、用紙に記入（マークシート塗り潰し式）し投票形式で投票するものです。全3回（9時間分）の実績にもっとも近い予想からポイント制で上位3名に賞品（省エネ対応商品を）授与しました。

今後も楽しんで全員が参加できる企画をして、環境についての興味と意識をより高めるように取り組んでいきます。

環境にかかわる改善提案の推進



《太陽光パネル》

秋田事業所では、「改善提案活動」のなかで、業務改善等のほかにも、「環境改善」の提案を推進しています。2015年度は、（株）東芝殿と連携し、雪国の実証実験用に太陽光パネルを設置いたしました。日本一日照時間の短い秋田県でのデータ取りを主目的としながら、発電した電力は秋田事業所で使用する事でエコ活動にもつながっております。

全員活動、コミュニケーション、地域との共生

工場見学

秋田事業所は、地域をはじめとする各種団体の工場見学を積極的に受け入れています。

その際には、環境保全の取り組みについても、掲示板”環境コーナー”等により説明し、ご理解をいただいております。



七曲臨空港工業団地とその周辺の緑化事業

七曲工業団地連絡協議会と河辺戸島地区を中心とした周辺町内会の皆さまとの協働事業として、秋田事業所が会長事業所（2008年4月～2年任期）となった2009年6月28日、企業12社、5町内会でアジサイの植栽緑化事業「アジサイロード戸島」計画が行われました。

引き続きの活動として、昼休みを利用して、植樹エリアのゴミ拾い実施、また、休日は有志による草取りなどを実施しました。

冬期間、雪の影響も懸念されましたが、アジサイは順調に成長し、一部では立派に花をつけており、地域住民の方々からも景観がよく、道路がきれいになったとの評価をいただいております。見事なアジサイロードになる事を楽しみに今後も継続的に活動を実施していきます。

また、2014年9月には、この活動が『秋田県環境大賞』に選出され、賞状と盾を受領しました。

《2014年9月 秋田県環境大賞受賞の様子と賞状・盾》



全員活動、コミュニケーション、地域との共生

環境教育・見学会への参加

秋田事業所では、階層別に環境教育を実施し、全従業員での環境保全活動の水準向上を図っています。また、「環境保全カード」を配布し、環境保全目標等を周知徹底するとともに、私の環境目標を記入し意識づけしています。2006年5月から、「秋田市総合環境センター」と「秋田市リサイクルプラザ」の見学会を実施(毎年5～7名参加)し、廃棄物の削減がいかに大切であるかを学習する機会としています。今後も継続実施していきます。

ごみクレーンで攪拌処理を行っている様子。布団やマットレス、三段ボックスなどもあります。



放出ピット。月曜日は家庭ごみの日なので次々と回収車が入ってきます。



圧縮されたアルミ缶2000個(40kg)溶かして棒状の固まりにし、再利用されます。



ペットボトルの再生
制服や作業着などに再生されています。



全員活動、コミュニケーション、地域との共生

廃棄物処理場の現地確認

秋田事業所から排出される廃棄物の処理場を6月と10月の2回に分けて現地確認しています。その際には、[秋田]環境報告書を配布し、取り組みへの理解をお願いしております。

地域社会で処理されるゴミ問題は環境のなかでも最も重要といえます。現地確認の状況を環境コーナーで全従業員に周知し、廃棄物削減及び分別して資源に！の意識を高揚させております。（写真は、廃油処理のエス・ユー開発殿）



全員活動、コミュニケーション、地域との共生

生物多様性(ビオトープ活動)

秋田事業所では、ビオトープ活動として、サンショウを植樹し、ナミアゲハを呼び込む活動を開始しました。2014年6月に近隣の山からサンショウを移植し、育成しました。

サンショウは無事に根付き、厳しい冬も越して、2015年度も立派な葉をつけました。

2015年度からは、観測を開始し、ナミアゲハは観測できていないものの、モンシロチョウやモンキチョウなどが飛び回っております。2017年は、キャベツを追加植樹し、ナミアゲハの産卵を期待しています。

《立派に葉をつけたサンショウ2016年5月》



《キャベツの植栽2017年6月》



東芝自動機器システムサービス株式会社 秋田事業所

所在地 : 019-2611 秋田県秋田市河辺戸島字七曲台120番25

電話番号: 018-882-5111(代表)

本報告書の内容や秋田事業所の環境保全活動に関するご意見、ご質問がございましたら
上記までお問い合わせ願います。

発行年月日: 2022年8月1日